

【学年研修目標】

人との関わりの中から課題を見つけ追求していく子

活動テーマ

1

おいしいお米を作って食べよう

4月から12月

1 具体的な活動内容と児童のあらわれ

(1) 課題についての調査とまとめ

・前期に引き続き個人で課題について調べた後、調べたことをまとめた。画用紙や模造紙を使い、図や絵を入れながらわかりやすく工夫して書いていた。

(2) 学年発表会

・12月9日に「米博士になろう」をテーマにして学年発表会を行った。5年生全員で前半後半の2組に分かれて、教室・中央廊下、図書室を使いポスターセッション形式の発表会を行った。国語の「調べたことをもとに発表会を開こう」でポスターセッションの発表会の仕方を学んだ。ここでは、今まで調べたことをもとにして説明をした。図や絵の説明だけでなく、お米を使った料理やおかしを持ってきて見せたり、試食試食してもらったりするような工夫も見られた。

・一人ひとりカードを持ち、自分の発表の振り返りと友達から得た情報を書き込めるようにした。

発表者の感想 ・ 少人数に向かって話したのであまり緊張しなかった。

・ よく聞いてもらえた。

・ 質問されて困ったことがあった。もっと調べようと思った。

聞き手の感想

・ 聞く人にあわせて話してくれたからよかった。すぐ質問もできた。

・ 絵や表があったのでわかりやすく、見やすかった。

・ 同じ前半になってしまったために聞きたい発表のところへ行けなかった。

・ 他のクラスの人の説明の仕方が参考になった。

資料1

(3) 収穫祭

・12月12日に学年で収穫祭を行った。田んぼをお借りした西山さんなどからいただいたお米で、餅つき・きな粉餅作り・お赤飯のおにぎり作りを行い、三田さんからいただいたわらでおかざり作りをした。

子供達の父母や祖父母・地域の人たち50人ぐらいの人たちが朝早くから手伝いに来てくださり、かまどに火をおこしたり、もち米をふかしたりするなど手早く仕事を進めてくださった。前日のお米とぎにも保護者の方々が積極的にかかわってくださった。

子供達は餅つきをした経験が少なく、「うす」や「きね」という語にも馴染みがないほどだった。友達のお父さんが軽々ときねを振り下ろしたり、お母さんやおばあちゃんがリズムカルに手返しをするのを興味深くみていた。実際きねを持ってお餅つきになるとふらふらとしてとても危なっかしいながらも一生懸命やる姿が見られた。

おかざり作りは説明を一生懸命聞き、真剣な表情で根気強く取りかかっていた。

1 具体的な活動内容と児童のあらわれ

(1) 課題設定

米について個人の課題を持ち、本やインターネット、取材などさまざまな追求方法で調べを進め、まとめてきた。収穫祭も済ませ、米の豊作をお祝いすることができ、子供達の中から、なぜこんなにたくさんのお餅を食べることができたのかという新たな疑問が湧いてきた。そこを突き詰めてゆくと、

- ・今年台風があまりこなかった
- ・天気がとても良い日が多かった
- ・夏が暑かった

・害虫が大発生しなかった などのいろいろな自然環境と豊作が密接に関係していることが分かってきた。そこで「豊かな地球を作るために」というテーマで課題を作ることとした。

これは社会科でも「私たちの生活と環境」という単元があり、関連して学習できると考えた。

(2) 個人の課題づくり

・子供達に「地球は今どんな問題があるでしょう？」と投げかけてみると、「地球温暖化」とか「ごみ」とか「オゾン層破壊」など言葉は知っている子がいた。しかし言葉だけで内容はあまり知らない子が多かった。

そこで、社会科の教科書を参考にしながら、

課題となりそうなもの

- ・空気の汚れ・ダイオキシン・工場のけむり・環境に優しい自動車・
- ・赤潮・水生生物・工場排水・公害
- ・ごみ・リサイクル・リユース・廃油石鹼・フリーマーケット・
- ・世界自然遺産・天然記念物・絶滅危惧動植物・柿田川湧水
- ・砂漠化・オゾン層破壊・酸性雨

など約30のテーマの例を紹介した。

その中から、または自分で考え、個人のテーマを設定した。

資料3

(3) パソコンの時間を使って

・それぞれが設定したテーマをもとに、インターネットでの調べ学習のやり方を大村先生から教わった。サイトへの行き方、検索の仕方、プリントアウトの仕方などを教えていただいた。

同じテーマであっても一人ひとりパソコンに向かうようにしたので今まであまりパソコンにさわらなかった児童も自分でやってみるよい機会となった。

図書室とパソコン室を使い、待っている間に図書資料を探したり、プリントアウトしたものを切り抜いたりした。

(4) 本作り

・インターネットから出した資料や図書室で探した資料をもとに、今回は本を作ることにした。写真を貼り、そこに説明を書いたり絵を書いたりする活動をした。

資料4

(5) 意見発表会

2月7日 参観会にて、各クラスで意見発表会をした。今までやってきたことをもとにして、調べたことの発表ではなく、そこから何を考えるか、自分自身がこんな世界・地球にしたい、自分としてこんなことをやっていきたいという観点から意見を持たせ、絵などを使いながら発表した。参観会にその時間を設定したことで自分の考えを友達や保護者に伝えることができた。

2 今後の課題

- ・インターネットや本で調べたことで満足してしまう子供達が多かったので、個別に声かけが必要。一人ひとりに関わる時間の確保や的確なアドバイスの方法を考えていかなければならない。
- ・まとめ方 資料をうつすのではなく、自分の考えを入れて工夫したまとめ方ができるよう指導をしていく必要がある。
- ・調べ学習ではない総合の課題の持たせ方。

5 年 年間の考察と課題

H15・2

1 総合的な学習のテーマについて

子供の思いが連続する課題作りをとおして

「おいしいお米を作って食べよう」

- ・自分たちが毎日食べているお米であり、生活と結びついていることや社会科の「私たちの生活と食料生産」や家庭科の「わたしたちと食物」などの学習との関連があることから、子供達は興味・関心を広げることができた。
- ・学校のすぐ近くの田んぼをお借りし、田植えや稲刈りなどの体験を取り入れることができたので子供達の活動意欲を引き出すことができた。
- ・収穫したものを食べるという活動を組み、満足感を味わわせることができた。

「豊かな地球を守るために」

- ・インターネットでも情報を得ることができる内容であり、パソコンが活用できた。
- ・ごみなどの問題は日頃生活していく上で必ず考えて行かなければならない身近な問題であることや、社会科「わたしたちの国土と環境」の学習との関連が図れることから、自分または自分たちにも関わることとして問題意識を持って取り組むことができた。

自己評価を生かした活動ができる子を目指して

- ・いろいろな経験から自分に合う課題を教師などが関わることにより、探すことができた。
- ・友達のやっていることを見たり、人に聞いたりすることにより、次に自分は何をしていくか、考えることができた。
- ・自己評価をしていくことはなかなか難しいようだ。
- ・子供の意識化を図るためにもその都度、評価カードを持たせていった方がよかった。

2 学年研修目標「人との関わりの中から課題を見つけ追求していく子」成果

人に頼るだけでなく、関わって行く中で自分から追求していこうとする態度がついてきている。

調べ方がわかるようになってきている。

いろいろなまとめ方があることがわかってきている。

調べる、まとめるだけでなく、そこから自分の考えを持つことができた。

夏休みにお米料理を作ったり、写真にとったりするなど家の人の協力がみられた。

田植えや稲刈り、収穫祭を通して地域の人との連携が図られた。

3 総合的な学習で育てたい力について 成果と課題

生きる力を高めるために

自分なりの方法で考え行動できるようになってきつつある。

自分なりの意見を持ち、社会に対してどうしていったらいいか、考えるようになった。(実践までにはまだ至っていないが)

個人差がかなりある。

教師側の支援・助言の時間をどう確保するか。

意欲関心を高めるために
家庭科・自然教室・社会科・田植え・稲刈り・収穫祭など実際に体験や実習・
見学をすることができた。
調べたことに疑問を持たない。調べた、写したというだけで満足。
発表し、質問しあうことで、調べていることが明確化された子もいた。その意味
では中間発表会、質疑等は重要。
田植えや稲刈りだけでなく水の管理など本当の米作りの大変さを実感させたい。
地域の方との関わり方、教わり方が分からないでいる子もいた。

自己課題の持たせ方
学ぶ力を高めるために
図や絵、写真などを使って上手にまとめることができるようになった。
調べたことをそのまま発表するのではなく、自分の言葉で発表できるようになっ
てきた。
調べたことから、自分の考えを持ち、意見を発表することができた。

支える力
図書室の資料やパソコンを上手に活用できるようになってきている。
語彙が不足している。国語力・作文力が低い。
読書の奨励、読む書くと言った国語力の強化

年間の活動について（問題点）

- ・教師の支援・助言の仕方、時間の確保
- ・自己課題の持たせ方
- ・国語力の強化
- ・作文だけでなく、意見を持ち意見文を書いていける力を育てたい。